



◀ そのほかの取材記事はこちらから ▶

市内のイベント情報ははこちらから ▶

松村美沙枝 赤こりリポーター



近江八幡には子育てを応援する団体がいっぱい！

6月2日はちはぴひろばで「子育て支援団体交流会」が開催されました。子育て支援団体と一言で言っても、運動遊び、音楽遊び、自然遊びから、発達に関わる支援や情報発信など活動内容はさまざま。交流会ではお互いの活動を紹介し合いそれぞれの活動に理解を深めていました。また、おすすめの遊び場や絵本などについて情報を共有し、さらに自身の活動に持ち帰れるよう活発な意見交換が行われていました。いろんな視点で「子育てを応援したい！」と思っている団体がたくさんいることは、子育て中の家族にとってとても心強いですね。

山田恵美 赤こりリポーター



沖島の漁業や暮らしを知る「沖島わくわく探検隊」

5月22日、市内沖島の漁業や暮らしを学ぶ「沖島わくわく探検隊」に馬淵小学校3年生19人が参加しました。小学3年生のふるさと学習の一環として今年度からスタートした取り組みで、馬淵小学校が第1回目の参加となります。漁業倉庫では県農政水産部水産課や県水産試験場の職員、沖島漁業協同組合の人から漁業のお話を聞いたり、漁具体験として、実際にエビを獲る漁具であるエビタツベや刺し網漁の網に触れました。質疑応答では「漁師さんは竿を使って魚をしますか？」「絶滅した魚はいますか？」と活発に質問が飛び交いました。また、班ごとの沖島タウンウォークでは島内のさまざまな場所を巡り、沖島の暮らしに触れる機会となりました。初めての船、初めての沖島という児童も多くおり、わくわくドキドキした学びの多い探検になったのではないかと思います。

向坂奈穂美 赤こりリポーター



「個性がキラリ」こどもたちの生け花展

5月16日、男女共同参画センターで開催された生け花展へ行ってきました。ご縁を大切にしたい想いを表現したりボン付きのマグカップに、小・中・高校生の子どもたちが1人ずつ生けた個性豊かな作品が並びます。

生け花教室の辻碧玲さんは「子どもたちが自由に表現することを大切にしている」とのこと。その言葉の通り、細長い多年草「フトイ」を折り曲げて三角などの図形を作ったり、細いワイヤーをつかって固定したり、自由な発想の作品に見ているこちらワクワク。「私のお花も見て～」と声をかけてくれる子どもたちの、少し誇らしげな表情とキラキラした瞳が印象的でした。

三上香帆 赤こりリポーター



巨大瓦も！歴史と職人技が息づく「かわらミュージアム」へ

本市多賀町にある「かわらミュージアム」への取材で、ずっと疑問だった「なぜ近江八幡で瓦なんだろう？」という理由が納得できました。水路の掃除で出た泥を田んぼの肥料にし、その下の良質な粘土を瓦作りに生かすという、自然と共生する見事なサイクルが築かれていたそうです。館内には信長・秀吉ゆかりの豪華な金箔瓦や、町を守る魔除けの「鍾馗様」など歴史ロマンが満載。人の背丈を超える巨大な棟飾瓦には圧倒されました。約2万4千枚もの瓦で飾られた建物自体も芸術的で見ごたえ抜群です。見学の締めくくりには、瓦作りに挑戦できる体験工房もおすすめ。歴史と職人の知恵を肌で感じに、ぜひ足を運んでみてください。

6月13日

誰もが楽しめる
スポーツフェスティバル 2026

運動公園でスポーツフェスティバル 2026 が開催されました。これは、子どもから高齢者まで誰もが、それぞれの能力や状況に応じて気軽にスポーツを楽しみ、継続的なスポーツ活動につなげることを目的としています。

当日は天候にも恵まれ、全身を使った正しい歩き方が身につくノルディック・ウォーキングやティーボール、ニュースポーツ体験、走り方教室、球速を測るスピードガンチャレンジなど多彩なコーナーが設けられました。参加者は、初めてのスポーツに挑戦したり、思い切り体を動かしたりとさわやかな汗を流していました。

5月16日



駅前から「元気の出る朝」を演出

本市の玄関口である JR 近江八幡駅で、駅前はんえい会が八日市南高等学校花緑デザイン科の生徒たちのデザインによる花壇の植栽を行いました。

駅前はんえい会は、同駅からぶーめらん通りにある商店や事業所からなる組織です。街路灯の設置や街路樹の清掃、歩道における花壇の整備を行っており、毎年この時期には八日市南高等学校の協力を得て花壇の植栽を行っています。今年のコンセプトは出勤・登校前に見ると元気になれる色合いの花壇で、黄色や赤色などの暖色系を多くし、気持ちいい朝を過ごしてほしい思いが込められています。

一緒に植栽を行った徳永久志市長は、「駅周辺の環境整備にご協力いただきありがとうございます。きれいな花を見て市民の心が癒やされれば」と話していました。

6月6日



八中学生徒会が「でっくん」で魅力を PR

八幡中学校生徒会が八幡堀周辺で学校のゆるキャラ「でっくん」、「でっちゃん」を活用した地域貢献活動を行いました。

「でっくん」は市特産品のでっちゃんかんをモチーフにしたキャラクターで、生徒会日刊新聞発行 8000 号を記念して誕生。その後、妹の「でっちゃん」も制作されました。生徒会有志は、地域に恩返ししたいとの思いから、今回着ぐるみを着用して近江八幡市の魅力を紹介した生徒会新聞号外を観光客に配布しました。生徒会長の中村心結さんは「多くの人が興味を持ってくれてうれしい。地元はもちろん県外の人にも知ってもらい、愛されるキャラクターになってほしい」と話していました。

6月8日



近江牛の新たな一歩

（株）びわこフード（武佐町）が、日本で初めて「非併設食肉処理施設」として輸出認証を取得し、スライス加工した和牛（近江牛）の海外輸出を開始しました。非併設食肉処理施設とは、食肉と畜場に併設されていない施設のことです。

これまで輸出は国ごとの加工の好みに応えるため、ブロック肉（塊肉）での輸出が主流でしたが、輸出先によっては精肉加工の技術・人材不足による品質低下が課題となっていました。しかし、加工品を海外へ輸出するには大変厳しい衛生管理基準を満たしている必要があり、食肉処理施設のみが認証を受けている状況でした。そうした中で、同社は日本で初めて非併設食肉処理施設として輸出認証を受け、出発式当日、台湾に向けて約5kgの近江牛を出荷。近江牛を世界に届ける新しい一歩となりました。